

県が「ふるさとやまなし創生フォーラム」

子育て環境 自信もって発信

子育て支援の充実を図り、少子化の流れに歯止めをかけることを目指す山梨県はこのほど、甲府・県立文学館講堂で「ふるさとやまなし創生フォーラム」を開いた。日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介さんが「子育て環境から考える地方創生」と題し、基調講演を行ったほか、「子どもは宝」を実現させる地域づくり」と題したパネルディスカッションでは、県内で子育てに携わる専門家らが子育て環境や地域社会の課題について意見を交わした。

基調講演

子育て環境から考える地方創生

日本総合研究所 主席研究員 藻谷 浩介さん



もたに・こうすけさん 1964年山口県生まれ。平成合併前の3200市町村全と、海外80カ国を自費で訪問し、地域特性を把握。地域振興や人口成熟問題に関し研究・著作・講演を行う。2012年から現職。

地域活性化とは何でしょうか。高速交通整備？職場の増加？いや、人口が減らなくなることが活性化ではないでしょうか。リニア開通後も人口は増えませんが、現に東京から新幹線で30〜40分の小田原・箱根・熱海でも、長年人口は減っています。県内でも、東京に近い大月や上野原の人口減少が著しいのです。職場がないから人口が減るわけでもないのです。山

梨県の失業率は東京都よりずっと低く、人手不足なのに、東京に出て非正規労働者になる若者は後を絶ちません。人口が減るのは、「地元はダメだ、東京に出なさい」と、子供に教える親がいるからではないでしょうか。ですが東京こそダメなのでは。

社会全体の支援が不可欠

梨県の失業率は東京都よりずっと低く、人手不足なのに、東京に出て非正規労働者になる若者は後を絶ちません。人口が減るのは、「地元はダメだ、東京に出なさい」と、子供に教える親がいるからではないでしょうか。ですが東京こそダメなのでは。

行った分、新たに65歳を管村のように環境が良好な人よりも増える人、あれば遺子が正常に生まれる人が多いからです。医療福祉の予算が減る分を子育て支援に回せません。

例えば小菅村では、最近5年間に4歳以下の乳幼児が10人増えました。自然の中でゆったりと子育てした夫婦の移住も増えています。

村田 山梨県の人口減少の現状と子育て施策を教えてください。

岩佐 県の人口は2000年をピークに減少傾向にあり、今後も減少が想定されます。合計特殊出生率は1.5にとどまっています。県は「山梨県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を15年に策定。「生み・育む」ことにより、安心して出産・子育てができる環境の充実を目指しています。具体的には、宿泊型産後ケア支援や24時間体制の電話相談、第2子以降3歳児未満の保育料無料化などを行っています。

村田 父親としての考えは。

岩佐 女性の社会進出は男性の家庭進出なくして不可能であると考えます。夫の家事・育児時間が長いと第2子以降の出生割合が増えるというデータがあり、男性の育児休業取得は必要です。一方で子育て世代の仕事量は非常に多く、働き方の改革も必須です。私は育児休業を取得しましたが、同僚に負担をかけるという心理的負担がありました。日本人は他人に迷惑を掛けないことが美德とされているため、「サポートしてほしい」といった声を

「パネリスト」

子育て情報誌「ちびっこぶれす」編集部 新津 幸さん
社会福祉法人ゆうゆう理事長、すみよし愛児園長 矢巻 行祥さん

やまなし暮らし支援センター 移住専門相談員 倉田 貴根さん
山梨県福祉保健部健康増進課長 岩佐景一郎さん

「コーディネーター」
山梨総合研究所専務理事 村田 俊也さん

新津さん 矢巻さん 光り輝ける場所に 行動で社会変える



新津幸さん

上げにくいのです。助けを求める「受援力」を高め、助けた人も助けられた人もお互いさまという空気を醸成することが大切です。

村田 活動を紹介してください。
新津 私は19歳で出産しましたが、孤立した子育てになってしまったことから、行き場のない母親の居場所をつくり、子育てを支援してきました。現在は子育て支援者のネットワーク「やまなし子育て応援ネットワーク」はびの活動と、子育て情報誌の編集をしています。南アルプス市の子育てハンドブックを発行する際は、行政だけでなく、母親や市民団体も一緒に作りました。南アルプス市市民活動センターではコーディネーターとして、市民活動をサポートしています。皆の声を届け、支えることが役目と思っています。

矢巻 甲府・すみよし愛児園(こども園)をはじめ、指定管理者として笛吹市と東京都の保育園を運営しています。いずれも元は60人定員です。全ての家庭を訪問でき、話を進められるの



矢巻行祥さん



倉田貴根さん

の子育てのしにくさ。大人2人に平均1人しか子供が生まれず、過去40年間で首都圏の子供は半減しています。それにもかかわらず、育所は足りず、病院も足りません。

一方で、山間過疎地では、高齢者が減り始めています。高度成長期に若者が出

います。高齢者の減少で総人口は減っていますが、子供を産む人もいて初めの子供の数が減らなければ、村は消滅しません。

村田俊也さん



と感じます。

で、60人程度の規模が望ましいと考えられているからです。当園では子どもと親が協力して、ササ造りに挑戦しました。難しく考えると一歩は踏み出せません。やってみようという人が行動することで、社会は変わります。社会は人がつくり、人が変わると社会が変わるということを伝えていきたいと思っています。

倉田 山梨県の人口減少対策の施策として13年、東京・有楽町に「やまなし暮らし支援センター」がオープンし、私は相談員を務めています。当初はリタイア後の生活を考える人が多かったのですが、最近では30代、40代の子育て世代が増えています。移住希望先として、山梨は13年に全国2位、14年には1位となり、15年には約2500件の相談があるなど、注目されています。

村田 東京と山梨の子育て環境の違いは。
岩佐 山梨は、子どもが自然に触れながら遊べる場所が多いと感じます。倉田 東京では保育園開設を子どもの声の原因で反対されたり、公園でボール遊びができなかったりすることがあります。東京での子育てに限界を感じ、山梨での子育てを望む方が増えているのです。

村田 山梨の良さを知ってもらおうとが大切です。
倉田 山梨県民は山梨の良さに気付くことで、幸福度が上がるのではないのでしょうか。PRがあまりうまくない

倉田さん 岩佐さん 移住増へPR大切 男性サポート必要



岩佐景一郎さん